

広報 NASUKARASUYAMA

那須烏山

— No.69 —

2011
June

6

Public Relations Magazine
of Nasukarasuyama City

第1回八溝そば街道そばまつり……	2
そばでまちを活性化……	6
復旧・復興みんなの願い……	8
災害支援受付……	10
春の交通安全運動……	11
市職員の人事異動……	14
まちの話題……	18
インフォメーション……	20



第1回八溝そば街道そばまつり(5月14・15日、山あげ会館敷地内)

第1回

八溝そば街道

そばまつり



第1回八溝そば街道そばまつりが5月14日と15日の2日間、山あげ会館敷地内において開催され、約2万1千人の来場者で賑いました。

会場では、そばうち名人として有名な広島県「達磨・雪花山房」高橋邦弘さんのそばが味わえるところあって、朝早くから並び姿が見受けられました。

また、県外から全国的に名の知られているB級グルメ5箇所の出店もあり、こちらも早くから長い行列ができ、大勢の人で賑っていました。



古くから生産されている八溝のそばは、八溝山系の豊かな水資源のもとミネラルやタンパク質が豊富。寒暖の差が大きい山間地域で栽培され、香り高いそばで知られています。

このそばを全国にアピールし、地域を活性化させようと、八溝そば街道推進協議会や本市と那珂川町の商工会、観光協会、そば生産組合などが集り、八溝そばまつり実行委員会を結成し今回の祭りを企画しました。

第1回目は市内と近隣のそば店1組合7店。そして、広島県「達磨・雪花山房」高橋邦弘さんのそばの出店が決定。さらに静岡県、山梨県、埼玉県から著名なB級グルメの出店もあり開催前から多くの期待が寄せられていました。



高橋名人の店

午前10時の開店前から高橋名人のテントには長蛇の行列ができ、予定を30分早めのオープンとなりました。市外から来た60代の男性は「日光のそば祭りでは名人のそばが食べられなかった。今日は朝一番で家を出てきた、食べるのが楽しみです」と話してくれました。

行列は途切れることなく、2日間で用意したそば2400食分は、両日とも早々に完売し大好評でした。



「地域の活性化につなげたい」

実行委員長の福田弘平さん



「4年前からそば祭りを企画していました。昨年、高橋名人の講演会を地元で開催したところ、その席で次回は那須烏山のイベントに参加すると約束してくれました。とてもうれしかった。八溝のそばは、名人も認めてくれるほど良質なので、これを全国に広めて地域の活性化につなげたい。まつりは来年以降も実施したい」





そば打ちの競演



野沢昇さん(宇都宮市)
「日光のイベントで食べられなかった分、今日食べられてうれしい」



若林好一さん(益子町)
「名人のそばを一度食べてみたかった。おいしかった」



市貝町に住む大貫幸子(左)さんと那須烏山市中央の黒川寿子(右)さん姉妹
「おなかいっぱい食べました。おいしかった」



(左から)加藤司さん、中村大輔さん、菅野茂樹さん、堀江淳さん(宇都宮市)
「全種類食べました。八溝のそばは他のところより風味があっておいしい」



山本耀椰くん(右)(那須烏山市滝)
「そばは大好き。今日のそばはおいしいです」

新名物が誕生!!
そば粉入り特製ピザが登場
小麦粉の強力粉や薄力粉で生地を作るのが一般的なピザ。まつりの会場にはさすがそばまつりとしが言いようがないピザが登場しました。
それはそば粉入りの特製ピザ。会場にはピザ専用の窯が2基設置され、次々にピザが焼かれていきしました。食べた人からは「あっさりした味でおいしい」と評判も大変良く、5枚ほどをまとめて買っていく姿が多く見受けられました。



特製ピザにも長蛇の列。



金沢良子さん(宇都宮市)
「そばの食べ歩きが好き。今日は名人のそばが目的で来ました」



本澤達也さん(宇都宮市)
「名人のそばはコシがあっておいしかった。この辺のそばと味が違う」



大島ルミ子さん(宇都宮市)
「今朝の新聞を見て来ました。名人のそばはおいしかった」



佐藤俊一さん(那須烏山市下境)
「そばピザがもちもちしていておいしかった」



上野健二さん(那須烏山市野上)
「私もそばを打ちますが、今日のそばはおいしくて参考になった」



参加したグルメの旗。

超人気！B級グルメ
富士宮やきそば(静岡県)、
甲州とりもつ煮(山梨県)、フ
ジサクラポーク生ウインナー
炭火焼(山梨県)、みそぼと
(埼玉県)、浜松餃子(静岡県)
がまつりに登場。
めったに口にすることがで
きないとあって、こちらも長
い行列ができ、各ブースでは
食欲をそそる香りが立ち込め
来場者の胃袋を刺激していま
した。市内の30代の男性は「や
きそばがおいしかった。並ん
だ甲斐がありました」と満足
そうに話してくれました。



グルメコーナーに並ぶ来場者。



富士宮やきそばのブース。

元気いっぱいな 2日間でした。



⑥



④



①



②



⑤



③

①最後尾の看板まで出た名人の店②軽トラック市も大好評
③11月開催「スボレク・エコとちぎ2011」のマスコットキャラクター「とちまるくん」も登場④パン職人いっぴのみなさん⑤ガールスカウトのみなさんは会場内で災害支援をアピール⑥あすなろ作業所のコーナーも人気。



地元の魅力 再発見 そばでまちを活性化

「那須烏山市には、そばで地域を活性化させようとして取り組んでいる人達があります」

おおぎす新そばまつり

昨年で17回目を迎えたおおぎす新そばまつり。大木須地区の有志で開催しており、毎年11月に大木須オオムラサキ公園で行われる。市内外から約1000人以上が参加し、リピーターも多い。地元で栽培したそばを挽いて振舞う。地区の活性化に繋がっているまつり。



昨年のそば祭りの様子。



夏そばの生産

市の新たな特産品にしようと興野そば生産組合が栽培・収穫しているのが夏そば。品種は北海道で多く栽培されているキタワセ。夏そばは秋そばと比べて味や香りが落ちるといわれているが組合長の山村稔さんは「秋そばと比べても負けない味です」と太鼓判を押す。

市内のそば組合の協力で夏そばの発表会と試食会を実施し、関係者が一体となって年中おいしいそばを提供できるように取り組んでいます。



昨年の夏そばの刈入れと発表会の様子。

寒ざらしそばに取り組む

寒ざらしそばとは、秋に収穫した新そばを、冬の時期に冷たい水、あるいは清流に数日間浸けてアク抜きしてから寒風にさらし、乾燥させた玄そばを挽いて打つそばのこと。

一般のそばより風味と甘味があるといわれていて、そばの味が落ちる夏の間も新そばの風味が楽しめます。



今年の寒ざらしそばの様子。



寒ざらしそばの歴史は古く、江戸時代に信濃国(現在の長野県)の伊那の高遠藩と諏訪の高島藩からそれぞれの寒ざらしそばが將軍家に献上されたと伝えられています。本市では、平成22年から八溝そば街道協議会がこの寒ざらしそばの普及に取り組んでおり、街道の名物となるよう続けていくとのことです。

東日本大震災

一歩前へ山あげ会館が仮オープン

5月1日、東北地方太平洋沖地震の影響で休館していた山あげ会館が仮オープンしました。同会館は、屋根瓦の落下や館内のスピーカー落下、そして来場者に人気だった勘助じいさんの故障などの被害があり、地震直後から休館となっていました。が、市内観光の中心拠点でもある同館の再開が多く市民から望まれていたことから館内のみ早急に修理し仮オープンしました。



仮オープンした山あげ会館。

この日は、大谷範雄市長、福田弘平市観光協会会長ら約30人が出席して仮オープン式典が行われました。式典では大谷市長が「今日は市の復興の第一歩です。この仮オープンが呼び水となって市内の賑わいが戻ればと願います」とあいさつ。式典後は、館内に設置された「地車」を舞台上に山あげ保存会芸能部会による「子宝三番叟」と「将門」が披露され、元気な山あげ会館を市内外にアピールしました。



式典であいさつする福田会長。

仮設住宅が完成

東北地方太平洋沖地震で自宅が全壊した市民のために栃木県が本市岩子地内に建設していた仮設住宅が完成し、5月9日に入居者や関係者約50人が出席し入居式が行われました。入居者は市内の全壊判定を受けた被災者のうち入居希望があった20世帯67人です。

当日、式では大谷範雄市長が「今日が復興の第一歩です。市としてはできる限り支援していきます」とあいさつ。その後、住宅の鍵を受け取った入居者は不安



住宅使用の説明の様子。

を抱えながらも新生活をスタートさせました。

八ヶ代の自宅で家族6人が被害にあった中山滋子さんは「地震後は家族バラバラで住んでいました。また一緒に住めるようになったってうれしいです」と安心した様子で話してくれました。

仮設住宅は1DK2戸、2DK14戸、3DK4戸の20戸で、最長で2年間の入居が可能。5月31日現在、県内では仮設住宅の設置は本市のみとなっています。



住宅の鍵を開ける入居者。



復旧、復興みんなの願い

被災地岩手県山田町へ公用車を届ける

平成7年の山あげ祭に、岩手県山田町の郷土芸能「境田虎舞」を上演してもらったことが縁で、4月2日に同町へ支援物資を届けた本市。

同月の22日には、震災からの復興のために役立ててもらおうと、本市所有の公用車2台を同町に届けました。

この公用車は、田野倉地区で自動車販売業を営む塩谷東洋雄さんからの寄付。塩谷さんは、被災地を支援するために何かできないかと思い、自動車で支援しようと考えました。相談を受けた本市は、一旦、市の公用車として登録した後、山田町に貸与することで手続きをしました。

同町へ公用車を届けた川堀文玉生涯学習課長は「テレビの映像と違って想像以上に被害が大きい。山田町役場でも公用車が数台流されたので少しでも役に立ってほしい」と話してくれました。



鍵を受け取る佐々木義伸山田町役場総務課長(右側)。



山田町の被害の様子。

◇岩手県山田町

人口約1万8600人の漁業の町、岩手県沿岸部の中央に位置する。産業は養殖が中心の漁業。第70代内閣総理大臣の鈴木善行氏の誕生の地。

今回の地震では震度5弱を記録し、大津波によって町は壊滅状態となった。

◇6月1日現在、山田町の被害状況(岩手県HPのデータより)

死者数・576人 行方不明者数・296人

住宅、建物被害(全壊数十半壊数)・3184棟

◇虎舞

三陸沿岸各地に伝わる郷土芸能。山田町の虎舞は「境田虎舞」といい毎年9月の八幡神社、大杉神社例大祭で大漁満作、商売繁盛を祈願して奉納され、3種類の踊りと、4種類のお囃子を組み合わせる。

再開の願いを込めて花瓶の制作

本市の特産品でもある有限会社南那須こぶしが丘牧場で製造している牛乳が、今回の地震で工場に大きな被害を受け製造再開の見通しがなくなりました。そんな中、鳥山保育園(那須信純園長)では園児たちが同牛乳の再開を願ってあるものを作りました。

そのあるものとは、母の日のカーネーションを入れる花瓶。給食に地産地消を取り入れている同園では、以前よりこぶしが丘牧場の牛乳を園児たちに提供していました。毎日、大きな牛乳瓶で届く牛乳が園児たちは大好き。一人ひとりコップに注いでおいしそうに飲んでいました。

が、今回の地震で牛乳の供給がストップ。残念がっていたところ、ふと思いついたのが、空になった牛乳瓶。同園ではこれを利用して、園児たちにおいしい牛乳を飲んでいたという思い出と、もう一度あの牛乳が飲みたいという願いを込めて花瓶の制作

いという願いを叶えるために牛乳瓶を利用して何か制作できないかと考えました。

園児たちは、牧場から譲り受けた牛乳瓶に、お母さんの顔を描いた紙や色紙で牛乳瓶を装飾し、手作りのカーネーションと一緒にプレゼントしました。

さくら組の阿相陽香ちゃん「また牛乳が飲める日まで、忘れないように作りました」と笑顔で話してくれました。

また、同園の那須恵副園長は「制作は年長組だけでしたが、全園児が牛乳の再開を願っています」と話してくれました。



園児の願いがいっぱい詰まった花瓶。

震災被災者支援制度の申請を引き続き受け付けます

地区別の受付は6月5日で終了しました。

6月6日以降の申請は…

- ・各担当課に直接申請願います。
- ・申請の際に「り災証明書」が必要な場合は、総務課（烏山庁舎内）で事前に証明を受けてください。
- ・各制度の申請に必要なものは必ず持参ください。

○支援制度と必要なもの

支援制度名	支 援 内 容	必要なもの	担当課
①生活再建支援制度	全壊又は大規模半壊の世帯に、支援金及び住宅の復旧の仕方により加算金を支給。	・印かん ・預金通帳 ・復旧の考え方 「住宅の建築、購入等」	総務課 ☎83-1111
②災害復旧支援金制度	半壊又は一部損壊の世帯で、その復旧費に5万円以上要した場合、5万円～10万円（支給限度額）を支給。	・印かん ・預金通帳 ・復旧費の見積書又は領収書 ・現況の写真	総務課 ☎83-1111
③被災住宅地復旧工事助成金制度	宅地や擁壁等に崩落や亀裂等の被害を受け、2次災害の恐れがある被害で、復旧工事費が100万円以上の場合は、300万円以内で助成金を支給。 ①被害が他の住宅や公共施設等に影響を及ぼす場合：補助率1/2 ②被害が他に及ぼす影響が少ない場合：補助率1/4	・印かん ・預金通帳 ・復旧費の見積書 ・配置図 ・現況の写真	総務課 ☎83-1111
④被災住宅再建等支援制度	住宅の再建のため金融機関等から融資を受けた場合、利子補給の一部の助成が受けられます。	・印かん ・借入れに関する契約書 ・償還計画表 ・工事請負契約書等	総務課 ☎83-1111
⑤災害援護資金貸付制度	家屋に半壊以上の被害を受けた場合、被害の状況と所得状況に応じて、被害援護資金の貸し付けが受けられます。		健康福祉課 ☎88-7115
⑥税の減免制度	固定資産税、市民税及び国保税等で、半壊以上の世帯でその被害状況に応じて減免が受けられます。	・印かん ・現況の写真	税務課 ☎83-1114
⑦水道料金減免制度 *直接、上下水道課に申請願います。	家屋内にある水道施設の破損により漏水があった場合、平成23年4月分の水道料等の一部の減免が受けられます。	・印かん ・水道施設の修繕の見積書又は領収書 ・現況の写真	上下水道課 ☎84-0411
⑧国民年金保険料免除	住宅及び家財等に概ね1/2以上の損害を受けた場合、本人の申請に基づき保険料が免除されます。なお、免除を受けた期間によって受け取る年金額が減額されます。	・印かん ・現況の写真	市民課 ☎88-7111
⑨後期高齢者医療保険料減免	被保険者またはその属する世帯の世帯主が所有する住宅及び家財等の損害金額が前年中の合計所得金額の100分の30以上に相当する場合に、損害金額等に応じて保険料の減免が受けられます。	・印かん ・現況の写真 ・被保険者証	市民課 ☎88-7111

春の交通安全運動 — 交通事故ゼロを目指して —

5月11日から20日までの10日間、「子どもと高齢者の交通事故防止」を運動の基本とした春の交通安全県民総ぐるみ運動が県内一斉に行われ、市内でも多彩な催しが行われました。



買い物客にチラシを配る参加者。

* 高齢者にやさしい3S活動とは *

SEE

高齢者をいち早く発見する
高齢者の動きをよくみる

SLOW

高齢者を見たら減速する

STOP

危険を感じたらすぐに停止する

「高齢者に優しい3S運動」を強化
県民総ぐるみ運動前の5月2日、高齢者を事故から守ろうと、市内のスーパーで交通安全協会などにより、買い物客に3S運動の実施を求めるチラシを配布しました。
孫と買い物に来ていた60代女性「車を運転している時、危ないと感じる時が多い。自分も注意しなくては」と話してくれました。

街頭で交通安全をPR

5月11日の午前9時から、旭交差点で特別街頭周知活動が行われ、大谷範雄市長や、那須烏山警察署の石川二三男署長をはじめ、交通安全協会役員や安全運転管理者協議会員、交通安全母の会のメンバーたちなど約50人が参加しました。

参加者は、信号待ちのドライバーにパンフレットなどを配り、安全運転を呼びかけました。



停車した車にチラシを配付する参加者。

交通安全帽子(防止)隊発足



委嘱状を受取る荒井豊(左)さんと秋元春美(右)さん。



帽子隊の決意表明を朗読する秋元さん。

5月20日、烏山公民館において、交通安全帽子隊の発足式主催・那須烏山警察署、那須烏山市、那須烏山市交通安全協会が開催され、関係者約80人が出席しました。
高齢者の事故が増加しているなか、市内のいきいきクラブ48団体が先頭に立って交通事故防止に努めることを目的に発足し

たもので、この日は各クラブの代表が出席し、石川二三男那須烏山警察署長から委嘱状が交付されました。
式典で石川署長は「帽子隊の方々の心と行動に交通事故防止の思いを託します」とあいさつがありました。

本市への義援金 ありがとうございます



義援金を手渡す豊島区の水島正彦副区長(左)

那須烏山市江川地区学校支援本部 10,000円、日本赤十字社・中央共同募金会並びに日本放送協会及びNHK厚生文化事業団を通じて寄せられた義援金 33,280,000円、とちまる募金 2,000,000円、日本空手道白垂会栃木支部 8,000円、君島憲夫 5,000円、横枕青年団 30,000円、菱沼和子 5,000円、立正佼成会一食平和基金 200,000円、(社)正州会愛和苑 200,000円、豊島区 2,000,000円、那須烏山商工会 23,440円、蓮見信行 10,000円、高田幸子 3,500円、栃木県市長会 25,000円、絳縁 20,000円、(有)しおや保険事務所 50,000円、(社)栃木県建築業協会烏山支部那須烏山地区会員 220,000円、匿名希望 10,000円、栃木県災害対策本部 1,080,000円、(有)前沢電気 45,000円、旧制烏山中学校第38回烏山高校第2回卒業生18名 22,000円、森豊 20,000円、山中正勝 11,000円、栃木県自動車整備振興会南那須支部 100,000円、(有)藤田自動車整備工場 13,639円、那須烏山連合ベースボールクラブ 8,421円、生魚正行 10,000円、生魚商店ワンカップ会 22,000円
(4月26日から5月30日受付分、受付順、敬称略)